

## 10月の都内経済状況







営業開発部

項目	天気図	コメント	
現在の景気動向		10月の都内の景気は、一部に弱い動きも見られるが、緩やかに回復している。百貨店の売上は減少したが、スーパー、コンビニエンスストアの売上は増加した。乗用車販売は3ヵ月ぶりに前年を下回った。住宅着工は2ヵ月連続で、公共投資は5ヵ月連続で増加した。輸出は2ヵ月ぶりに前年を下回った。有効求人倍率は2ヵ月連続で上昇した。工業生産(9月)は2ヵ月ぶりに前月から減少した。28年7~9月期の関東大企業の設備投資は前年を上回り、経常利益は非製造業を中心に増益となっている。	
今後の見通し(3ヵ月)		都内の景気は一部に弱い動きも見られるが、引き続き緩やかな回復が期待される。新興国の景気下振れや金融資本市場の変動、イギリスのEU離脱決定の影響などが今後のリスク要因となっている。	
個人消費費	百貨店売上高		百貨店売上高は、前年同月比▲4.7%と3ヵ月連続で前年を下回った(既存店ベース)。衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品の主要5品目がいずれも2ヵ月連続で前年を下回った。化粧品は増加基調を維持したが、美術・宝飾・貴金属は景気の不透明感などを背景に減少が続いている。
	スーパー売上高		スーパーの売上高は、前年同月比0.3%増と6ヵ月ぶりに前年を上回った(既存店ベース)。衣料品は高気温の影響で秋冬物が不振だったが、主力の食料品は農産品の相場高もあって堅調に推移した。
	コンビニ売上(関東)		関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比2.7%増と44ヵ月連続で前年を上回った(全店ベース)。淹れたてコーヒーなどのカウンター商材や調理麺等が好調に推移したと見られる。
	乗用車登録台数		乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲0.9%と3ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別では、普通車(同10.7%増)は3ヵ月連続で前年を上回ったが、小型車(同▲11.6%)は2ヵ月連続で、軽乗用車(同▲12.1%)は22ヵ月連続で、それぞれ前年を下回った。
住宅建設		住宅着工戸数は、前年同月比6.4%増と2ヵ月連続で前年を上回った。利用関係別では、分譲一戸建て(同▲5.2%)は減少したが、持家(同4.7%増)、分譲マンション(同9.9%増)、貸家(同10.5%増)が増加した。	
公共投資		公共工事請負金額は、前年同月比8.2%増と5ヵ月連続で前年を上回った。発注者別では、国(同▲23.7%)、独立行政法人(同▲49.3%)、市区町村(同▲44.2%)、地方公社(同▲26.8%)は減少したが、東京都(同7.3%増)、その他(877.5%増)が増加した。	
貿易(東京税関管内)		東京税関管内の輸出額は前年同月比▲3.1%と2ヵ月ぶりに前年を下回った。主要地域別では、中国向け(同0.4%増)は小幅増加したが、アメリカ向け(同▲12.1%)、EU向け(同▲14.1%)、アジアN I E s 向け(同▲1.3%)、ASEAN向け(同▲5.2%)はいずれも減少した。	
設備投資(関東、大企業)		財務省「法人企業統計調査」関東財務局管内分大企業集計によると、関東の法人大企業(資本金10億円以上、金融・保険業を除く)の28年7~9月期の設備投資額は、全産業が前年同期比1.9%増、製造業が同2.4%増、非製造業が同1.5%増となっている。	
企業収益(関東、大企業)		同上調査によると、関東の法人大企業(同上)の28年7~9月期の経常損益は、全産業が前年同期比39.8%増、製造業が同▲17.7%、非製造業が同73.2%増となっている。	
労働需給		有効求人倍率(季調値)は2.07倍と前月から0.04ポイント上昇した。有効求人倍率の上昇は2ヵ月連続。先行指標とされる新規求人数は前年同月比▲0.6%と3ヵ月ぶりに前年を下回った。南関東の完全失業率は3.2%で、前月から0.2ポイント上昇した。	
企業倒産		企業倒産件数は前年同月比▲15.6%と2ヵ月連続で前年を下回ったが、負債総額は同32.8%増と5ヵ月ぶりに前年を上回った。1~10月累計の倒産件数を業種別にみると、全体が前年同期比▲7.0%で、小売業(同12.5%増)、飲食店・宿泊業(同12.9%増)、不動産業(同7.3%増)などが増加し、卸売業(同▲10.3%)、サービス業(同▲11.0%)、情報通信業(同▲10.1%)、建設業(同▲6.3%)、製造業(同▲29.1%)などが減少した。	
資金需要(銀行)		銀行の都内向け貸出残高は前年同月比2.8%増と62ヵ月連続で前年を上回り、増加幅も前月から0.5ポイント拡大した。増加幅の拡大は2ヵ月連続。	

工業生産指数(季調値) ( )は前年同月比%	工業在庫指数(季調値) ( )は前年同月比%	消費者物価指数 ( )は前年同月比%	(一)ロメロ 低下続く東京ビジネス地区の空室率 三鬼商事株発表の「東京の最新オフィスビル市況」によると、東京ビジネス地区(都心5区)の平均空室率は、10月時点で3.64%と4ヵ月連続で低下した。区別では、①新宿区が2.47%で一番低く、続いて②渋谷区2.86%、③千代田区2.87%、④中央区3.92%、⑤港区4.91%の順。
7月 93.8 (▲6.6)	7月 113.6 ( 2.6)	8月 99.6 (▲0.5)	
8月 96.2 ( 1.6)	8月 118.0 ( 12.4)	9月 99.7 (▲0.5)	
9月 95.3 (▲4.1)	9月 115.7 ( 4.8)	10月 100.3 ( 0.1)	

\*工業生産指数・在庫指数は2010年平均=100、消費者物価指数は2015年平均=100。\*工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
		晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨